



都市史

神田周辺

17N1056 鈴木祐也

14N1028 沖山雄大

17N1028 加藤碧

17N1041 小林隼人

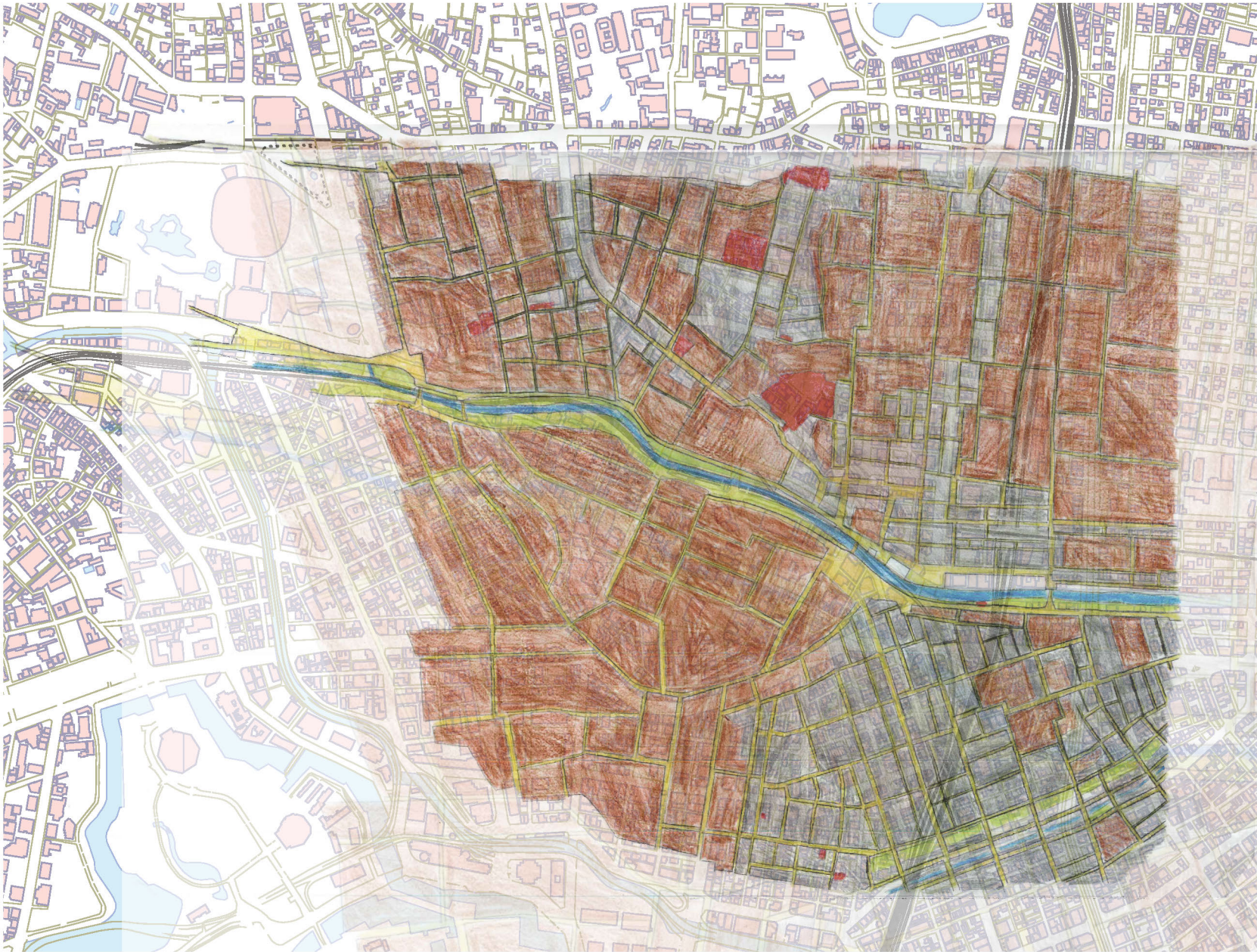
17N1096 松井健治

ad：瀬戸大輝

渡辺悠夏

王雯萱

江戸時代と現在

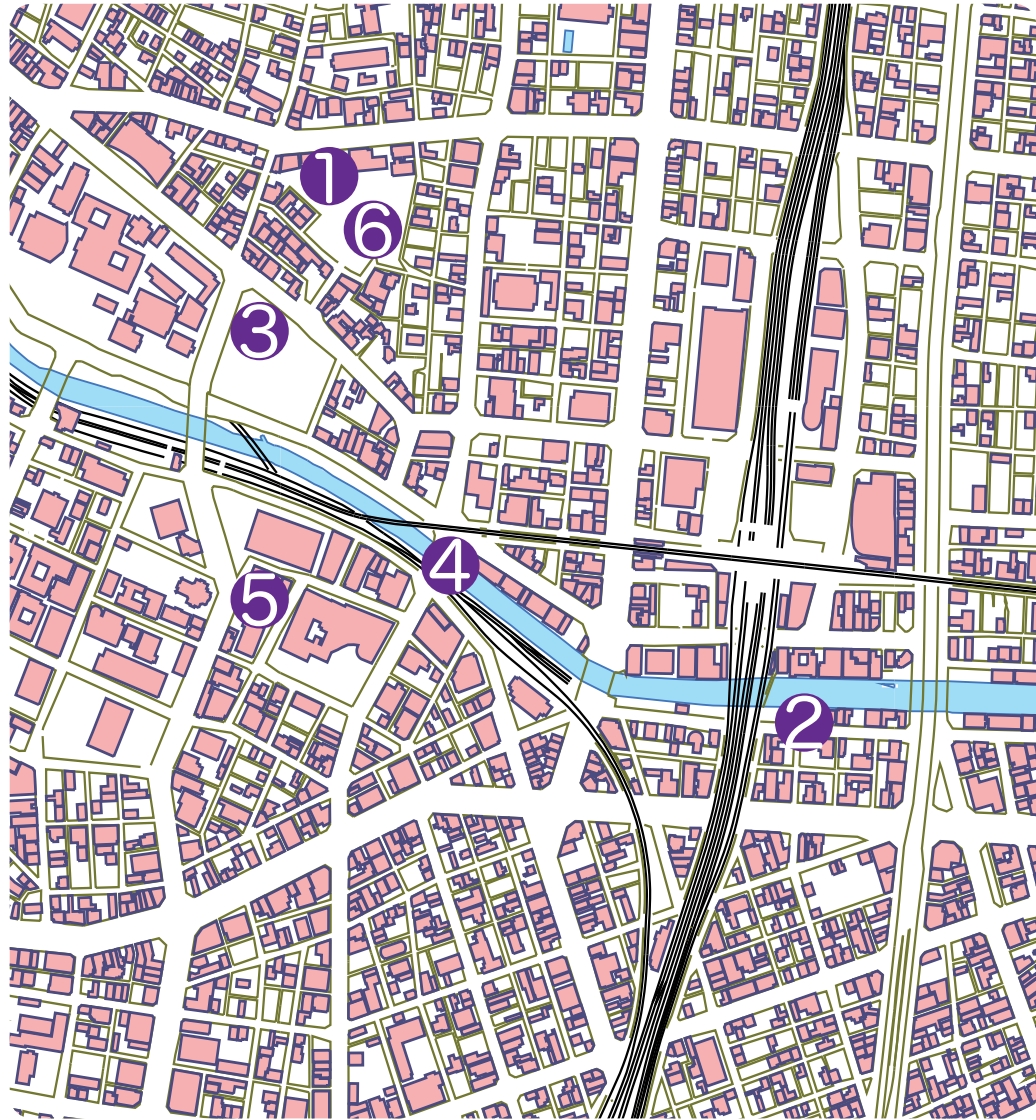


- : 道
- : 川・沼等
- : 寺社
- : 町家
- : 武家屋敷
- : 畑・草等

明治時代と現在



- : 道
- : 川・沼等
- : 寺社
- : 町家
- : 武家屋敷
- : 畑・草等



- ①神田明神
- ②柳森神社
- ③湯島聖堂
- ④昌平橋
- ⑤高畠邸
- ⑥神田の家

ピックアップした
建築。

神田明神



神田明神は天平2年(730)に現在の皇居大手門脇将門塚周辺に、出雲系氏族の新神田臣が祖神大己貴命(だいこく様)を奉祀した事により創建の歴史ははじまります。江戸時代には、「江戸総鎮守」として将軍様から江戸庶民にいたるまで江戸のすべてを守護されました。

神田明神創建1,300年を迎えるにあたり記念事業を実施、ご神徳の高揚と共に伝統文化の継承と新たな文化の発信を志し、神田明神文化交流館「EDOCCO」を建設。神田明神文化交流館「EDOCCO」は、神札授与所・御参拝受付・飲食店や土産物店・様々な使用方法が期待できる「神田明神ホール」・多様な伝統文化を体験できるスタジオ・屋上庭園を備えた貴賓室など、充実した施設である。



柳森神社

江戸城東北方面の鬼門除けとして創建。
1659年に現在地に移転。
関東大震災で社殿が全焼するも、
1930年に復興。その後も戦争や放火
等で何度か損壊するも修復され今に至る。



神田川に面しており、橋を渡る際に塀
に看板が掲げられているのが見えた。
周囲はビル等が立ち並び町中に急に現
れたような印象を受けた。

湯島聖堂

1690年に江戸幕府5代将軍徳川綱吉が孔子廟として建てられたもの
その後、1797年に幕府管轄学校の昌平坂学問所が開設される
建てられた当初のものは戦争や大震災によって全焼してしまい、
現在建っているものはその後改修されたもので、位置や外観などは以前のものとはほぼ同じ様に出来ており、
国の文化財として保護されている。



以前、敷地内に茶屋があったり、
周りは割とひらけている様であったが、
現在は前の道は舗装され、
周辺には大学やビルが建ち並んでしまい、
当初の様な目立った外観が損なわれている様に
感じた。

昌平橋

江戸時代初期に初めてかけられた際は、一口橋や芋洗橋と呼ばれていた



橋の上から見える、川幅が狭い神田川の小さなスペースに多くの建造物が渡っている光景は、壮観である



[江戸時代～明治初期]

橋を造る技術が未熟だった上に、度々の神田川の洪水によって頻繁に架け替えられた

[明治時代]

資産家によって架け替えられた際、日本初のアスファルト舗装が行われた

[大正時代]

現在の姿となり、関東大震災に対しても鉄筋コンクリート製のおかげで目立った被害はなし

[平成時代]

千代田区景観まちづくり重要物件に指定され、現在は長寿化工事が施されている

高畠邸

江戸時代、駿河台は旗本クラスの屋敷地で、明治期には実業家の邸宅や病院、学校などが作られた。関東大震災後は市内で初めて区画整理が行われた場所。



近年の建替えや再開発によって景観が一変した中で、当時の御屋敷の面影を残す貴重な建物。

周辺には重要文化財のニコライ堂のような歴史ある建物があり、高層ビルが多い駿河台のなかで都会のオアシス空間を形成していた。



神田の家

千代田区有形文化財

江戸時代から続く材木商の遠藤家の旧店舗・住宅主屋。

現在、井政「神田の家」では、江戸の暮らしを今に伝える遠藤家の調度品を展示するなど、季節の行事に合わせたイベントを企画・開催している。





川

江戸：運搬利用として多くの水路が使用され、
洪水防止として掘も多い



現在：使用されていない、
埋まったところも多い



道

江戸：中央通りが主要



明治：鉄道の発達により駅付近が活発に



現在：地下鉄、高速道路も発展し、
直線的な区切りが薄まる

まとめ

開発が進み、高層ビルが立ち並ぶ区画もあるが、

一方で

当時多かった武家屋敷の敷地や道
古い建物や書店街など

現在でも残っている場所も多い

昔から家や商店が立ち並んで中心的都市として栄えていた



街並み

